

新基地建設反対名護共同センター ニュース

対馬丸の生存者平良啓子さんの遺志を継ぎ9条を守ろう



追悼
平良啓子
さん

啓子先生の遺志を継ぎ
憲法九条を守り・活かす
運動を進めよう！

「わたしが一〇二歳になつたら、真六(夫)の三三年忌だから、一緒に逝くのよ。それまでは頑張るよ。」とおっしゃるのが啓子先生の口癖でした。いつも前向きに明るく元気で、講演を頼まれればどこにも出かけて行き、対馬丸の体験を実にリアルにお話をされました。九条の会の活動もひるむことなく、車の両輪のように取り組んでこられた啓子先生でした。

突然、大黒柱を失ったこの悲しみは、なかなか消えません。しかし、私たちが喪失感を抱えたまま何もしないでいると、「皆さん、早く平和の鐘を鳴らし、憲法九条を守る運動を進めないと、戦争の時代に戻ってしまうよ。私は、空から見守っていますよ。」と言われている気がします。

大宜見村憲法九条を守る会を、二〇〇七年一月三十日塩屋公民館で立ち上げてから、今年で十六年目を迎えます。啓子先生は、これまでに九条だよりの発行や、映画「ひめゆり」、「米軍が最も恐れた男―カメジロー」などの上映会、改憲阻止等の署名運動、講演会などに力を注ぎ、そして高江へり基地建設反対で、毎週月曜日のテント小屋の当番を八年余り続けてきましたね。その中でも支援者から、対馬丸のお

話を聞きたいと要望があると、決められた時間内でお話をされていましたね。

私たち大宜味村憲法九条を守る会と、大宜味村との共同で取り組んだ「日本国憲法九条の碑」の建立は、画期的なことでした。今となつては、啓子先生への大きなお土産になりました。じきに、「平和の鐘」が建立されます。再び戦争をしない、させないという私たちの願いが鐘の響きに乗り、多くの人々の心に広く届くよう天国から応援してくださいね。

また、啓子先生は九条の会の活動はもとより、ご自分の一番の活動の原動力は、「対馬丸」で亡くなられたご家族やいとこの時子さんたち、まだ海の底におられる大勢の皆さんへの思いからですね。でも、もう大丈夫です。皆さんわかってください。先生が頑張ってください。

啓子先生、これからは、旦那様の真六先生やお父様、お母様、お義姉様の平良敏子先生たちと一緒に安らかにやすみください。そして、私たちを見守ってください。

(大宜味村憲法九条を守る会事務局)
金城 文子

2016年から 大宜味スタンディング



大宜味村でのスタンディングは、米軍のオスプレイパッド建設反対のたたかいが東村高江で続いていた2016年頃から始まりました。高江の着陸帯工事に使う土砂が、国頭村の採石場でダンプに積み、大宜味を通過して運ばれて行きます。「隣の村から土砂を運んで戦争のための基地に使うのは許せない」と、村内の人たちが、喜如嘉、大兼久、白浜の3か所で毎朝スタンディングを始めました。当時は参加する方も広範で、おばあちをはじめ、ダンプの運転手さん

も一緒に参加していたそうです。

現在は、「島ぐるみ会議大宜味」の役員が前日に話し合いを持って呼びかけ、月一回第3金曜日に「辺野古埋め立てに遺骨土砂は使わせない」というのぼりを掲げて、国道を走るドライバーに呼びかけています。

取材したその日は参加者が少なかったため、私たちも一緒にのぼりを持ってスタンディングに参加していると、車の中から手を振ってくれる方がいて勇気づけられました。



大宜味村に建立された憲法第九条の碑と啓子さん

県は、軟弱地盤が最も深い90メートルに達する地点の、軟弱地盤調査が行われていないことを理由に不承認を行った。本来軟弱地盤の調査をするべき国がそれを出してしまつたのです。

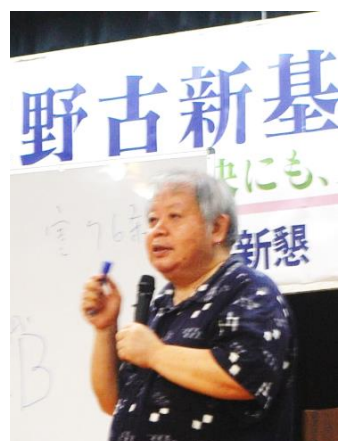
沖繩防衛局は、私人の権利救済のための「行政不服審査請求」を悪用、私人になりすまし同じ内閣(身内)の国交省に救いを求め、国交省が不承認の取り消しや是正指示を行ったのです。

今回の最高裁判決は、知事に埋め立て承認するよう求めたものではありません。

県は、軟弱地盤が最も深い90メートルに達する地点の、軟弱地盤調査が行われていないことを理由に不承認を行った。本来軟弱地盤の調査をするべき国がそれを出してしまつたのです。

辺野古新基地建設
最高裁判決は不当

9月24日夜、「不当な最高裁判決を許さない」と題して、革新懇学習会が浦添市社会福祉センターで開かれました。講師は徳田博人琉大教授でした。



野古新基
にも
新懇